

2019年度の工事

【目次】

- 1. 下池掘削工事の概要・・・・・・・・・・P2
- 2. 課題のある箇所について・・・・・・・・P7

【ご注意】

本資料は、生態系保護の観点から生物の位置に関わる情報などは非表示としています。
ご了承下さい。

1. 下池掘削工事の概要

下池掘削工事に関するスケジュール

●要検討事項とスケジュール

1) 重要種への配慮

- 4～5月：事務局対応
掘削範囲内に生育する重要種に該当する植物について確認しました。
- 5～6月：委員会
事務局の調査・検討結果を確認し、協議します（5/15：現地確認、6/11：委員会）。
- 7月：事務局対応
重要種等の再確認、移植対象種のマーキング、移植先の検討を行います。

2) 工事用道路の配置

- 6月：事務局対応
川島町と協議し、民地との位置関係について確認します。
工事用道路の位置を確定します。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
重要等の確認	■			■								
移植対象および移植先の決定		■		■ マーキング								
川島町との協議			■									
設計図書の確定（図面・数量）			■									
施工						■ 準備工	■ 工事					
維持管理・環境管理専門委員会		● 5/15 ：現地確認	● 6/11 ：経過報告 (本日)	● 7月中 開催予定		● 9月中 開催予定		● 11月中 開催予定	● 12月中 開催予定	● 1/22 (巡視) ：施工結果 確認		● 3月中 開催予定
協議会						■ 経過報告					● 完成報告	

5月15日のゴマギ等現地確認結果

●4月24日の調査で、掘削予定範囲内に重要種ゴマギが新たに多数確認されたことから、5月15日に委員による現地確認を行いました。

非表示

非表示

下池掘削工事の方針（案）

● 2019年度掘削予定地の工事方針（案）

非表示

非表示

下池掘削工事の方針（案）

- 2018年度掘削地の竹林に面した箇所にも、タケの侵入を防ぐための防根シートを追加で埋設します。

非表示

非表示

2. 課題のある箇所について

課題のある箇所について

●巡視（2019年2月6日）及び第34回委員会（2019年2月7日）で追加実施すべき維持管理作業を確認・検討しました。
また、工事が2019年度で最終となる予定を踏まえて、追加で整備することが望ましい箇所についても確認・検討しました。
結果は以下のとおりであり、第49回協議会（2019年2月22日）で承認されました。

- ・周辺への供給源となってしまう外来種の大木など、通常の維持管理での対処が難しいものは伐採・伐根を検討する。
- ・安全確保のために柵などが必要な場所には、柵の設置を検討する。
- ・維持管理・利用のために必要な整備を検討する。

非表示

課題のある箇所について

表 追加で検討する維持管理・整備の内容

エリア	対応の種類	地点	内容
上池	工事	①モトクロス場跡地整備地A	ハリエンジュの大木を伐採・除根する。
		②モトクロス場跡地整備地D	これまで維持管理活動をしてきたシンジュ群落を伐採・除根する。
		③モトクロス場跡地整備地A	管理用通路出入りに車止めを設置する。
		④モトクロス場跡地整備地A・D、看板周辺	出水で乱れた柵を撤去する。
		⑤モトクロス場跡地整備地A・D、看板周辺	出水で乱れた柵の撤去後、新たな柵を設置する。新たな柵は、高さが低く、番線ではなくロープを使用したものが良い(ホンダエアポート側に設置のものと同様のもの)。
	維持管理	⑥上池旧流路整備地	・延命地藏尊付近のシュロ・トウグワを伐採する(かわじま輪中WG時)。 ・延命地藏尊付近の樹木のスズメバチが造巣した箇所を塞げると良い。
		⑦導水路付近	導水路の説明板の周辺を除草する。
		⑧モトクロス場跡地整備地A	モトA・H23整備地の管理用通路は、可能な範囲で維持管理の頻度を上げられると良い。
中池	工事	⑨広場	トウグワや広範囲に繁茂するクズ等を除去・除根する。
		⑩管理用通路沿い(水辺付近)	水辺付近のシンジュ群落を伐採・除根する。
		⑪管理用通路沿い(下流側)	下流側の通路沿いに並んで生えている、トウグワやシンジュを伐採する。
		⑫堤防付近	富士山への見通しを遮っているトウグワ1本を伐採・除根し、クヌギ1本を伐採する。
	維持管理	⑬管理用通路(短絡路)	短絡路上に伸びているクズを除去する。
下池	維持管理	⑭看板周辺	看板周辺のシュロを伐採する。
			非表示
		⑯下池整備地付近	掘削土砂仮置場やその周辺のオープンスペースの管理・活用方針を検討する。
全域	外部へ協力を依頼	⑰看板	看板周辺の除草を、周辺の地元の方にお問い合わせできると良い。

課題のある箇所について

- 「課題のある箇所の整備」について、第36回委員会（2019年5月9日）で出された意見等を基に、事務局が優先順位（案）を整理しました。
- 今後の活動の拠点である中池の各箇所、上池モトA整備地（車止め）、上池モトA・D整備地、看板周辺（乱れた柵の撤去）について、優先順位を高く設定しました。

表 課題のある箇所(工事で対応を検討)の優先順位

優先順位	エリア	地点	内容
A	中池	⑨広場	トウグワや広範囲に繁茂するクズ等を除去・除根する。
		⑫堤防付近	富士山への見通しを遮っているトウグワ1本を伐採・除根し、クヌギ1本を伐採する。
		⑩管理用通路沿い(水辺付近)	水辺付近のシンジュ群落を伐採・除根する。
		⑪管理用通路沿い(下流側)	下流側の通路沿いに並んで生えている、トウグワやシンジュを伐採する。
	上池	③モトクロス場跡地整備地A	管理用通路出入りに車止めを設置する。
		④モトクロス場跡地整備地A・D、看板周辺	出水で乱れた柵を撤去する。
B	上池	①モトクロス場跡地整備地A	ハリエンジュの大木を伐採・除根する。
		②モトクロス場跡地整備地D	これまで維持管理活動をしてきたシンジュ群落を伐採・除根する。
C	上池	⑤モトクロス場跡地整備地A・D、看板周辺	出水で乱れた柵の撤去後、新たな柵を設置する。新たな柵は、高さが低く、番線ではなくロープを使用したものが良い(ホンダエアポート側に設置のものと同様のもの)。

←
第36回委員会意見
：今後の活動の拠点となっ
ていくため、優先順位が高
い。

表中のアルファベットは整備の優先順位を表します。

- A：高い
- B：中程度
- C：低い

課題のある箇所について



課題のある箇所について

転落防止柵の案

目的と基本的な考え方

導水路への転落を防止するためのものである。
高さはおおむね1.1m 以上で、荷重に耐えられる構造とする必要がある。
低水路側は看板を設置して導水路を説明する場所としているため、こちら側に設置する。
中池の管理用通路に同様の目的の柵を設置しているため、意匠統一のため同じものを設置する。

イメージ



内容

中池管理用通路沿いに設置した擬木製の転落防止柵と同じものとする。（意匠統一を図る）

車止めの案

目的と基本的な考え方

管理用通路への一般車両の進入（ゴミの投棄等）を防止するものである。
散策者や管理用車両の通行が可能なものとするため、荒川上流河川事務所管内で設置されている標準的なものを設置する。

イメージ



内容

荒川上流河川事務所管内で設置されている標準的なもの（写真は中池管理用通路沿いに設置した車止め）と同じものとする。




課題のある箇所について

新規設置柵の案

目的と基本的な考え方

自然再生地への立入りを制限するためのものである。

すでに植物が繁茂しており四季を通じて人が誤って立ち入ってしまう可能性は低い状態であることから、立入って欲しくない場所であることを表示する機能に限定したものとし、支柱±ロープとする。

案	既存のもの	案1	案2
イメージ			
内容	地上高1.1mの松杭を2m間隔で設置し、番線を3本張る。	自然再生地の景観に配慮してプラスチック製の偽木（プラウッド）を設置し、ロープを2本張る。	安全上、目立つ色（白または黄色）の車止め用の汎用品を設置し、ロープを1本張る。
仕様	H=1.1m	H=0.85m	H=0.85m
耐久性	自然素材のため経年的に腐食するほか、出水により広範囲に倒伏することがある。その場合は再設置が必要となる。	プラスチック製のため耐久性が高い。局所的な損傷の際の打ち直しが比較的容易である。	ステンレス製のため耐久性が高い。取り外し可能なため、損傷時の交換等が比較的容易である。
経済性	約1,200円/本	約13,000円/本	約10,000円/本 (スチール製の場合は約半額)
評価			
備考		ロープは耐候性等を踏まえて適切なものを選定する。 経年劣化や出水等による損傷時には交換する。	